

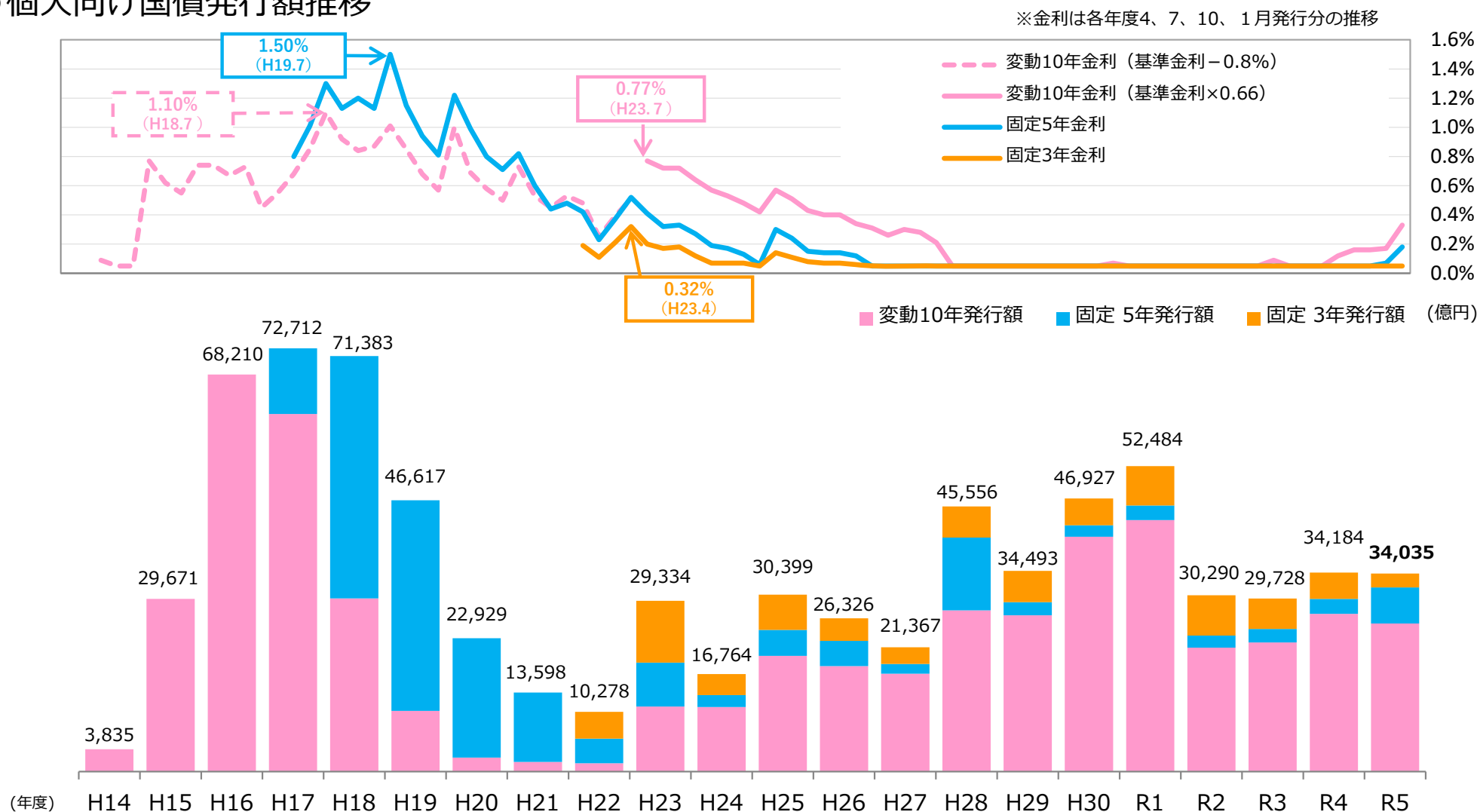
第23回 国債トップリテレーラー会議

資 料

個人向け国債の販売動向等について ①

- 令和5年度発行総額は、3兆4,035億円（対前年度比▲149億円、99.6%）と令和4年度と同水準となっている。
- 内訳は変動10年:2兆5,432億円（前年度比▲1,665億円）、固定5年:6,219億円（前年度比+3,644億円）、固定3年:2,383億円（前年度比▲2,128億円）となっている。

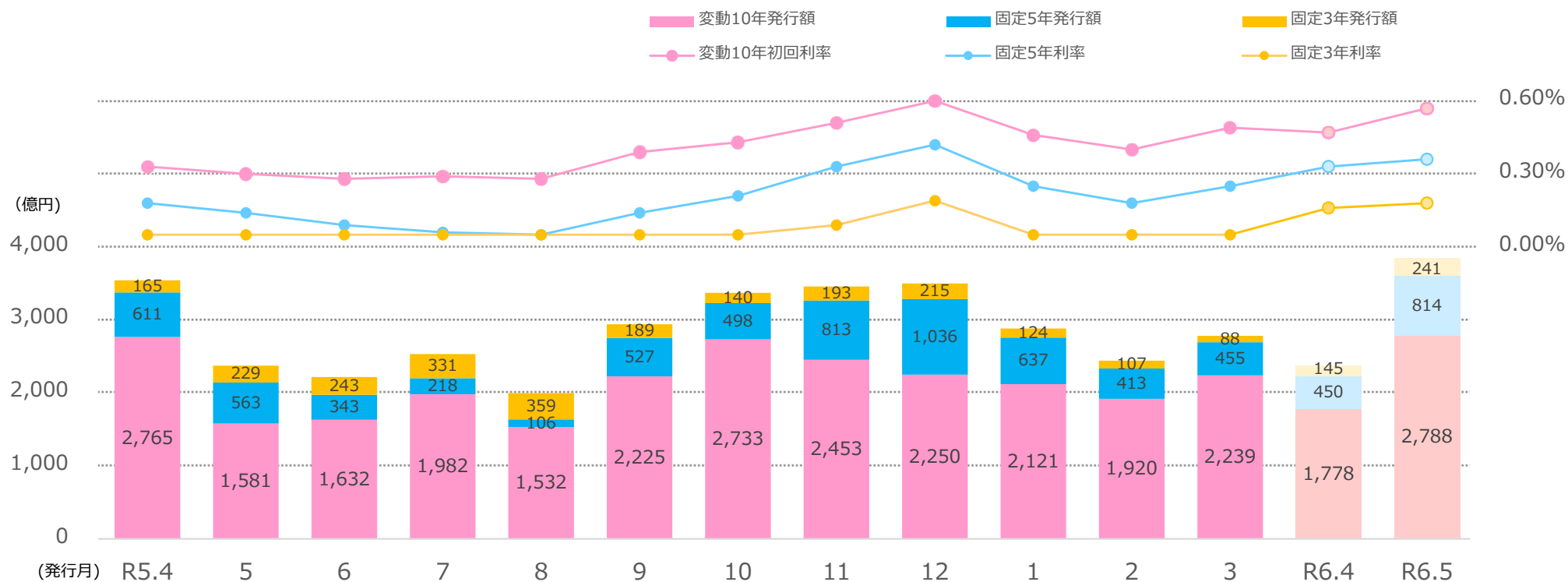
●個人向け国債発行額推移



個人向け国債の販売動向等について ②

- 令和5年度の各月の発行額についてみると、金利上昇した12月債の販売が増加しており、固定5年の販売が1,000億円を超えた。また、全体の発行額に占める固定5年の割合が増加している（令和4年度：7.5%（2,575億円）→令和5年度：18.3%（6,219億円））。
- 当局が実施した取扱機関へのヒアリングにおいては、
 - ・金利先高観も相まって、半年に一度適用利率の見直しがある10年債に投資妙味を感じる顧客が増えている。
 - ・8月募集分（9月発行分）から5年債に金利が付き始めたので、金利の高い10年、その次に5年が良く売れている。
 との意見があった。

●令和5年度 個人向け国債発行額推移



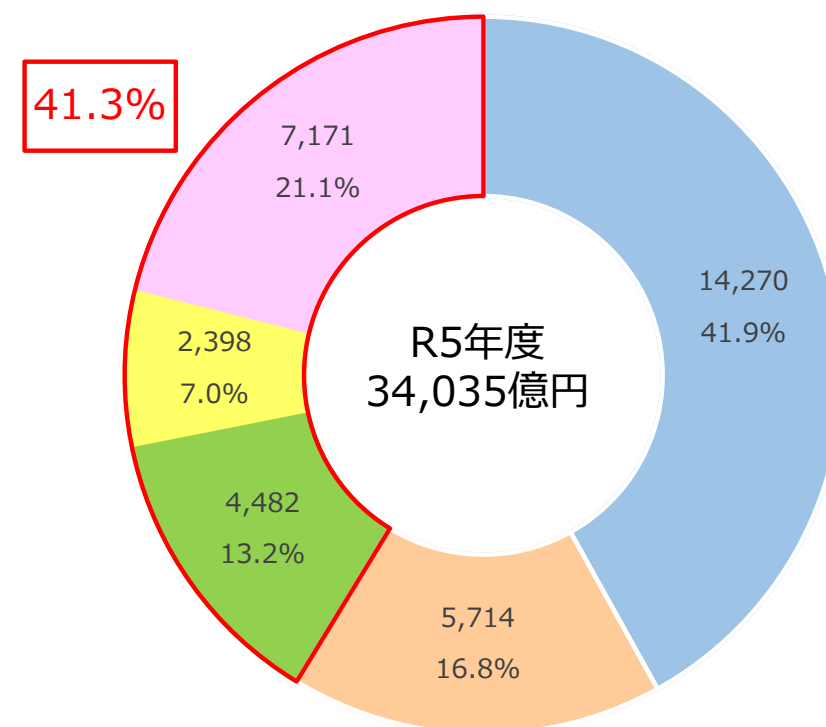
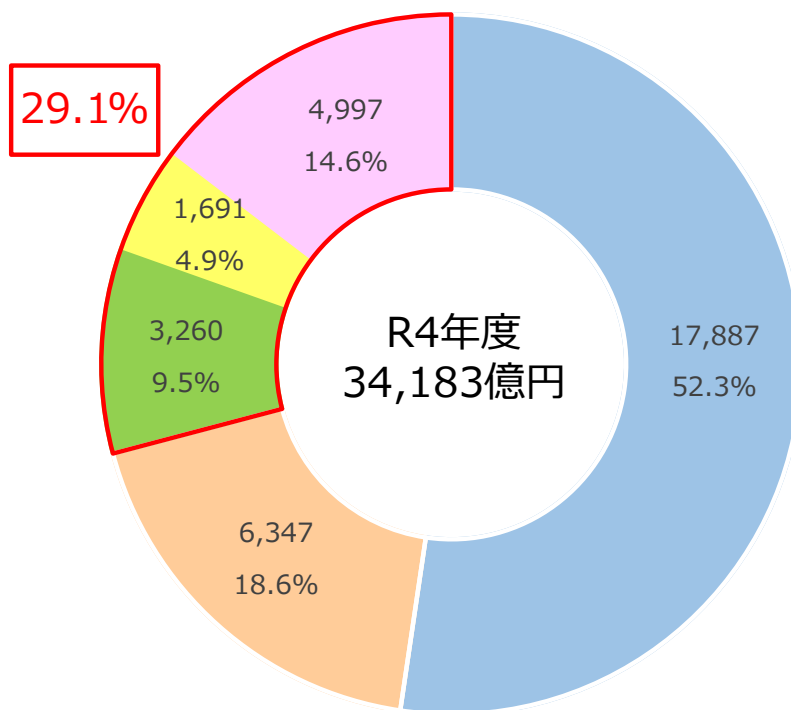
個人向け国債の販売動向等について ③

- 令和5年度は地方銀行・第二地方銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行等を含めたその他の販売額が令和4年度：9,948億円（29.1%）→令和5年度：14,051億円（41.3%）と増加が顕著。
- 当局が実施した取扱機関（地方銀行）へのヒアリングにおいては、
 - ・ 堅実で安定資産による運用を好む地域性や、金利上昇したこともあり、個人向け国債の需要が確認された。
 - ・ 顧客からの金利の問い合わせが増加した他、自主的に来店しそのまま窓口で購入されるケースが多くみられた。との意見があった。

● 業態別販売額・比率推移

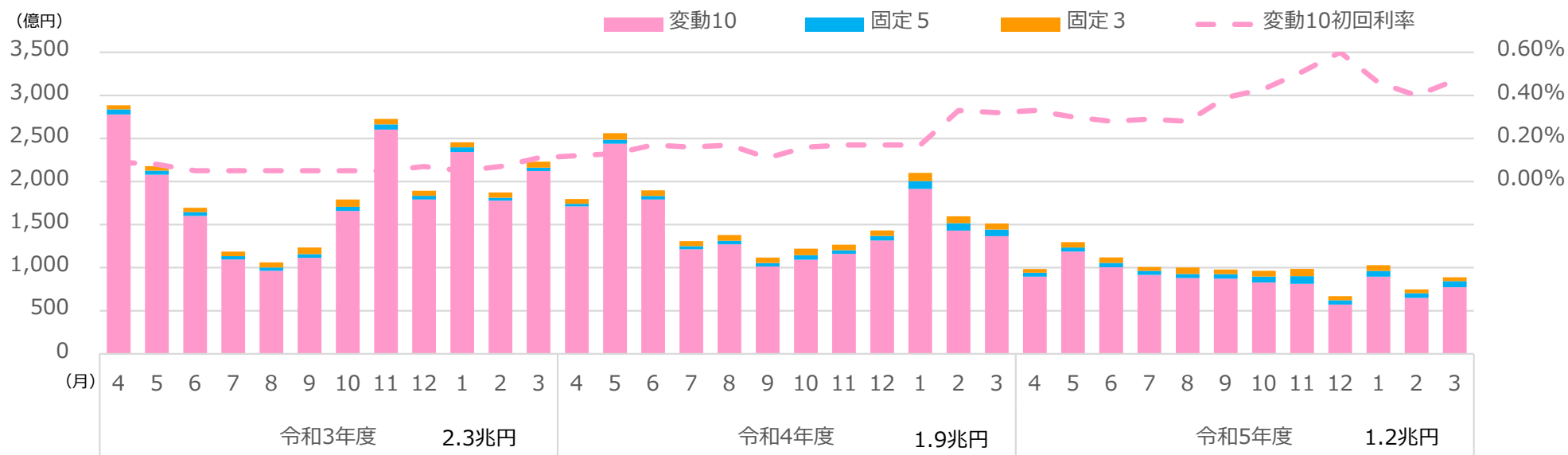
■ 証券会社 ■ 都市銀行 ■ 地方銀行・第二地方銀行
■ 信用金庫 ■ その他

※「その他」は、信託銀行、信用組合、労働金庫、JA、ゆうちょ銀行を表す。（億円）



- 令和5年度の個人向け国債中途換金額は、金利が上昇したことで減少（令和4年度1.9兆円→令和5年度1.2兆円（▲0.7兆円））し、個人向け国債の残高は増加（令和4年度末12.6兆円→令和5年度末13.3兆円（+0.7兆円））している。

●個人向け国債中途換金額推移



●個人向け国債残高推移

